

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 7年 6月14日
(145号)

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊幸

中之島ニュース



「成長から永続へ」
今こそ意識エンジのとき
白駒妃登美先生
(五月度特別講義より)

口ッパでの科学の進歩は戦争のためであつた。日本では二三〇年の天下泰平、科学進歩の必要はなかつた(光)。身分制度については、確かに身分制度があつたから、職業選択の自由はなかつた(影)。しかし“家業を継ぐ”ということがあつたからこそ、伝統文化工芸が絶やされることなく、継承されてきた(光)。歴史を見るときにはニュートラルな見方が大切であること、出来事には光と影があり、過去に起つた出来事を受け入れて、それをどう未来につなげていくか、という視点が必要だと教えてもらえたのです。

江戸時代はエコ時代

ヨーロッパでは三〇年と平和は続かなかつたが、日本では二三〇年の天下泰平、科学進歩の必要はなかつた(光)。身分制度については、確かに身分制度があつたから、職業選択の自由はなかつた(影)。しかし“家業を継ぐ”ということがあつたからこそ、伝統文化工芸が絶やされることなく、継承されてきた(光)。歴史を見るときにはニュートラルな見方が大切であること、出来事には光と影があり、過去に起つた出来事を受け入れて、それをどう未来につなげていくか、という視点が必要だと教えてもらえたのです。

幕末に来日した外国人の手紙や日記に次のような記録があります。「人々は楽しく暮らしており、食べたいだけ食べ、着物にも困つてはいない。家屋は清潔で、日当たりも良くて気持ちが良い」「おそらく日本は天啓を受けた国、地上のパラダイスであろう。人間が欲しいと思うものは何でも、この幸せの国に集まっている」「貧乏人は存在するが貧困は存在しない。金持ちは高ぶらず、貧乏人は卑下しない。みな同じ人間だと心底から信じる心が社会の隅々まで浸透しているのである」明治初めにはこんな記録もあります。

江戸時代には「奢侈(しゃし)禁止令」が定められ、民衆は、白米を禁止されたり、着物は絹ではなく綿や麻、しかもその色は三色のみで茶・鼠・お納戸色(藍)と限られています。しかし実は人々はその中でいきいきと暮らしていました。一例として着物の色は三色限定ではありましたが、四八茶、百鼠という言葉が生まれるほど、江戸時代の人は限られた色の微妙な色の違いを楽しんだのです。江戸時代はエコ時代とも言われるほど、持続可能な環境に優しい時代でした。しかも環境と経済発展が両立できていた。特に江戸の町においては失業率も驚くほど低かつたのです。なぜそのようなことが実現できたのか、見えていくため、共倒れせず、共に繁盛する仕組みになつていて。

江戸時代からの商いの永続性の理由は主に4つあります。

①ものづくりのレベルが最高。日本人にとっては、ものづくりは神様に捧げる仕事のため、手を抜くことなどせず、見えないところにまで魂を込める。

②巧みな仕組みづくり。他所の専門分野に入らず、仕事を分け合つていくため、共倒れせず、共に繁盛する仕組みになつていて。

③人材育成の素晴らしさ。

子どもにも不条理を経験させる。

④経営者の精神的な高さ。江戸時代の経営者は、自分の商売繁盛ではなく、「諸国客衆繁盛」を祈りました。その意味は、全てのお客様、自分以外のすべての人々の幸せを祈るということ。

時代が変わったとはいえ、これらをどうこの令和の御代で活かしていくのか。何がで生きるのか。そのヒントにしていただけたらと思っています。

《グループ討議》 白駒妃登美先生

Aグループ

- ・ニュートラルな視点で見る（光と陰）

・粹と野暮

・真の国際化

Bグループ

- ・素直が一番大事

・歴史には裏表（光と陰）がある

・諸国客衆繁盛

Cグループ

- ・自分の機嫌は自分でとる

・粹と野暮

・諸国客衆繁盛（自分以外全ての人の繁盛）

Dグループ

- ・素直

・粹と野暮

Eグループ

- ・物事には光と陰がある

・粹か野暮か

Fグループ

- ・身分制度からの手工業の発達

・台湾の人たちの想い（温かい支援）

- ・諸国客衆繁盛（全ての人のために祈る）

・不条理さを経験させておく

「諸国客衆繁盛」～すべての人の繁栄

「粹と野暮」

「光と陰」

の意見が多数ありました。



総合司会 町田豊彦塾生

講師紹介 南場結香塾生



グループ討議風景



今回も白駒妃登美先生が懇親会にご参加いただきました！

台灣の旅・八田興一氏慰靈祭に参加して

5月8日は、日本統治時代に台湾の水利事業に大きく貢献した日本人技師・八田興一氏の命日。八田氏は台湾で最も尊敬されている日本人の一人です。今年没後八三年目となる慰靈祭が南部・台南市の烏山頭ダムで執り行われ、式典には当塾常任講師の白駒妃登美先生が来賓として招かれ、私もあやかってご一緒させていただきました。

慰靈祭では、女子学生の合唱団による台湾語と日本語での「千の風になつて」の涼やかな歌声が流れ、厳粛かつ清澄な空気に包まれました。式典には頼清德総統も参列、「私は台南市長時代は台南市民を代表し、行政院長時代は台湾社会を代表し、総統の今は政府を代表して感謝を述べさせて頂いています。八田先生のこの水は農業や工業など台湾のあらゆるものを作っています、しかし最も大きなものは台湾人と日本人の心を繋ぐ水として今尚、流れ続けています」と挨拶をされ、涙がこぼれるほど胸を打たれました。

今回、台湾を訪れ、本当にこの国は日本を長きにわたり感謝し、愛してくださっていることを実感。八田氏だけではなく先人が台湾において、わ

(中川 千都子)



芳信抄

中之島ニュース144号ご恵送いただき誠に有難うございます。鍵山幸一郎さんのご講話を読み、鍵山秀三郎先生が自分軸ではなく、他人軸であったことがよくわからました。自分の身の回りにいる他人軸を教えてくれる人が、僕にもあります。祖母も母もそうでした。僕は大怪我をして介護が必要な身になりました。常に自分のことを二の次に考え、僕の事をしてくれました。でもこの僕は、まだまだ自分軸で考える人間です。修行が足りません。

母のことを坂村真民先生にお伝えすると、「母念」と書かれた葉書を送つてくださいました。幸一郎さんにとつて父親が一番大きなお手本だったのと同様に、僕にとっては母が一番大きな他人軸のお手本です。

愛媛県 桂 誠司 様

上甲晃先生の『松下幸之助の教訓』読了いたしました。サインには「志あれば困難こそチャンス!」と書いていただいています。

日本の伝統精神とは何か?

日本精神の一つは“主体性を持つこと”“衆知を集めること”“和を貴ぶ”、この三つだと思う、と幸之助翁は仰っています。日本らしさ、日本の特色、他国と違う唯一の点と確信させていただきました。神話や十七条憲法、五箇条の御誓文とつながることをようやくわからせていただいだ本となりました。

愛知県 坂部 智一 様

【編集部よりお願い】

第13期卒塾文集原稿の提出のお願い

第13期卒塾文集を卒塾式の日に発行します。

提出期限 6月30日(月)。(厳守)
文字数 800字以内。(厳守)

《人間学塾・中之島》次月案内

◇日時 令和7年7月12日(土) 13時
◇場所 大阪大学中之島センター10階
◇講師 野本三吉先生

テーマ「出会いの人間学」



教育学者。前沖縄大学学長。20代～30代の時期に、森信三先生に出会い、その後の生き方に大きな影響を受ける。

7月は、読書会です。

A グループは、「二語一会」
B グループは、「ありがとうございます」

編集後記

風薫る五月の人間学塾・中之島は、常任講師の白駒妃登美先生でした。いつもながら、すばらしいお話をした。自分の機嫌は自分でとる。素直さが大切。ニュートラルな視点。歴史の光と影。粹と野暮。などなど。挙げるときりがありません。江戸時代というと、時代劇では、悪徳商人と悪徳代官。これは今の令和でもある?というより、エコの時代で相互扶助がいきわたり经济もまわっていたのですね。未だに、成長成長そして拡大といわれています。人間性の拡大は大いに結構ました。

編集長 西村俊幸